

# 人類学演習Ⅳ 談話会

日時：10月14日（金）16:30～18:00

場所：理学部二号館201号室

＜講演者＞

竹澤正哲先生

（上智大学総合人間科学部）

＜講演テーマ＞

Adaptive “who” strategies in social learning

＜要旨＞

人や動物は他者の行動を模倣したり、他者から有益な情報を得ることで、個人では不可能な目標を達成する。こうした社会的学習は、生物学(Giraldeau & Caraco, 2000)、心理学(Heyes & Galef, 1996)、人類学(Boyd & Richerson, 1985)、経済学(Chamley, 2004)など多くの分野の研究者の関心を集め、理論的及び実証的研究が行われてきた。この中で浮かび上がってきたのが、「社会的学習戦略 (Laland, 2004)」という概念である。すなわち、社会的学習にはいくつかの方法があり、それらは「いつ自力での問題解決を諦め、社会的学習モードへスイッチするか (when strategies)」、そして、「誰から学習するか (誰を模倣するか; who strategies)」という2つの次元で整理できるというアイデアである。この研究では、人々が社会的学習を行う際、「誰」から学習することが適応的となるのか、すなわち、いかなる環境下でどの"who" strategy が適応的となるのかを検討する。まず最初に、適応的集団意思決定に関する Kameda らのシミュレーション研究(Hastie & Kameda, 2005; Kameda, Tsukasaki, Hastie & Berg, 2010)を出発点とし、二つの社会的学習戦略—多数派同調戦略とベストメンバー戦略—に着目する。そして、多数派と有能な独裁者のどちらに我々が従うべきかは、社会的環境構造、課題構造、そして、個人レベルの意思決定ヒューリスティクスなどの要因に左右されることを理論的、実験的に検討する。続いて、現実の社会からランダムに抽出された生態学的妥当性を持つ課題を用いて、現実の社会において、どちらがより高い成績をあげる可能性が高いかを実証的に検討していく。最後に、人々が場面に応じて、2つの戦略のうちより高い成績をあげる戦略を選択的に利用している可能性について議論する。

次回の予定

10/14 青木健一先生

担当：吉田建朗（井原研）